

畜産みやぎ

発行所
仙台市青葉区上杉一丁目16番3号JAビル別館3F
宮城県畜産協会
電話 022 - 723 - 0733

編集発行人
大堀 哲

印刷所
㈱東北プリント



急がれる耳標装着!!

も く じ

C O N T E N T S

平成13年度子牛市場動向と 今後の市場体制について 2	平成13年度家畜共済事業実績について 6
平成13年度生乳需給状況及び 平成14年度生乳需給計画について 3	宮城県産業経済部経営金融課からのお知らせ 8
宮城県牛海綿状脳症 (BSE) 対策の概要 4	(社) 宮城県畜産協会からのお知らせ 9
	新人紹介 9

みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
Eメール mygchiku@mwnet.or.jp

平成13年度子牛市場の動向と今後の市場体制について

全農宮城県本部 家畜市場課

平成13年度みやぎ総合家畜市場、子牛市場実績は19,454頭（前年19,870頭）で前年対比97.9%、平均価格で349,071円（前年411,452円）でありました。年度前半は市場統合3年目に入り統合メリットが見えはじめ価格は比較的堅調に推移したものの、BSE発生後は枝肉価格の暴落に連動して子牛価格も低迷するという危機的な状況をもたらしました。特に12月開設市場においては258,000円までの下落といった事態にまで至りました。

その後回復の様相を示しているものの、引き続きその経過を慎重に見守る必要があります。今回このBSE発生に伴い改めて生産から流通、消費まで根本的に見つめ直す機会を与えられて、その中で子牛生産農家においても給与飼料調査票を標示するなどの流通上履歴の証明は不可欠のものとなっています。

このような情勢の中で、平成14年度みやぎ総合家畜市場の体制として、これまでと同様に履歴情報を公開し、さらに市場名簿への期待育種価指標表示をスタートさせて生産者、購買者にメリットをもたらしより生産性の高い経営をめざしてもらいたいと思います。

また、近年における購買者の傾向として大規模肥育農家の参入が多く目につくようになっていきます。

これらの購買者は、必然的に他県子牛市場との出荷牛の経済性、安全性の比較をし、より高い産肉性なり、ワクチン予防接種（ヘモ接種検討中）等の対応を求めています。

つぎに業務推進体制ですが、平成14年度より和牛子牛登記及び和牛登録の審査並びに関連する業務を、(社)畜産協会より委託を受け家畜改良事業の円滑なる推進を図り、生産指導から流通まで連携を図り一体化した体制が確保できると考えます。

最後に、今年度においても上場子牛の斉一化、頭数の確保、さらに優良雌子牛の県内保留促進等を図るために「みやぎの和牛」ブランド確立促進、マニュアル牛生産促進事業などの関連事業を展開することになっておりますので関係の団体、関係機関、子牛生産者のご指導ご協力を今後尚一層お願い申し上げます。

1. 過去3年間の月別取引頭数と価格の推移

(単位：頭)

	11年度	12年度	13年度
4月	1,975	1,857	1,848
5月	1,827	1,820	1,877
6月	1,881	1,900	1,977
7月	1,764	1,716	1,739
8月	1,412	1,420	1,395
9月	1,198	1,207	1,184
10月	1,269	1,391	1,143
11月	1,581	1,654	1,506
12月	1,839	1,707	1,683
1月	1,561	1,552	1,587
2月	1,815	1,695	1,559
3月	2,256	1,951	1,956
合計	20,378	19,870	19,454

(単位：円)

	11年度	12年度	13年度
4月	355,630	412,781	394,826
5月	368,481	395,622	378,019
6月	387,152	398,182	368,620
7月	367,027	372,938	397,457
8月	384,437	414,625	382,519
9月	407,156	408,225	407,623
10月	402,465	423,454	326,163
11月	433,487	416,590	352,077
12月	427,008	438,712	258,016
1月	423,776	423,756	313,508
2月	406,937	417,506	308,489
3月	388,758	419,628	306,607
平均	394,559	411,452	349,071

(副場長 菅原勝則)

平成13年度生乳需給状況及び平成14年度生乳需給計画について

東北生乳販連宮城支所
みやぎの酪農農業協同組合

平成13年度の全国の総受託乳量は、7,890千トン（対前年比99.4%）と前年を下回る結果となりました。各地域の生産については、北海道は若干前年を上回りましたが（対前年比101.7%）、都府県においては、上記は、前年度の伸び率から見て増加基調であったものの、下期においては、頭数やBSEの問題等による固体乳量の伸びの低迷により、減少傾向を呈しました。（対前年比97.5%）

本県の生乳生産状況については、計画生産目標167,252トンに対し、受託実績乳量は162,439トンで対前年比97.8%と昨年に引き続き減少となりました。

平成13年度生乳計画生産達成状況

(単位：トン、%)

	受託乳量	前年比	進捗率	未達超過	計画乳量
みやぎの酪農	88,419,583	99.81	99.81	-167,417	88,587,000
宮城酪農	46,487,054	98.18	95.85	-2,012,946	48,500,000
全農宮城	26,464,167	91.33	91.33	-2,512,833	28,977,000
山田酪農	1,069,008	90.01	89.98	-118,992	1,188,000
計	162,439,812	97.80	97.12	-4,812,188	167,252,000

また、東北地域の用途別販売は、飲用等向けについては、生産ベースから見てほぼ前年並みで推移しましたが、加工向け等については生乳生産量の低迷に伴い、前年を下回る結果となりました。

平成13年度用途別販売実績

(単位：トン、%)

用途別	東 北		全 国	
	販売乳量	前年比	販売乳量	前年比
飲用向け	570,242	99.0	4,345,974	97.5
発酵乳等向け	46,717	130.2	329,637	123.1
加工向け	96,371	94.3	2,088,933	98.4
生クリーム等向け	30,160	64.8	821,089	102.8
チーズ向け	4,845	108.3	304,585	104.1
全乳哺育	105	81.6	122	83.6
計	748,440	97.8	7,890,339	99.4

平成14年度生乳需給計画については、まだ14年度の県別生乳計画生産目標数量が確定しておりませんが、本県の希望数量として166,365トン対前年実績比102.4%を計画しております。

今後、平成13年度の未達ペナルティー、並びに14年度の全国調整枠等の数量が確定し、最終目標数量が決定次第、各会員に配分する予定になっております。

また、今後夏場に向け、乳業各社との取引において、衛生管理が非常に重大になってきますので、暑熱対策や乳質事故防止には万全を期して下さるようお願い申し上げます。

なお、酪農経営基盤の維持拡大を図る上からも、本年度の目標数量の達成については、昨年に引き続き、更なる御協力をお願い申し上げます。

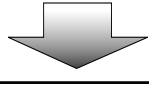
(販売課長 武田良介)

【宮城県牛海綿状脳症 (B S E) 対策の概要】

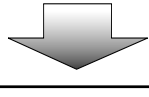
【BSE感染牛の発生】
 1 頭目
 9月22日確定
 千葉県白井市
 2 頭目
 11月22日確定
 北海道猿払村
 3 頭目
 12月2日確定
 群馬県宮城村



消費者の牛肉に対する不信感の増大



消費者の購買意欲の低下



消費の落ち込み



牛肉相場下落



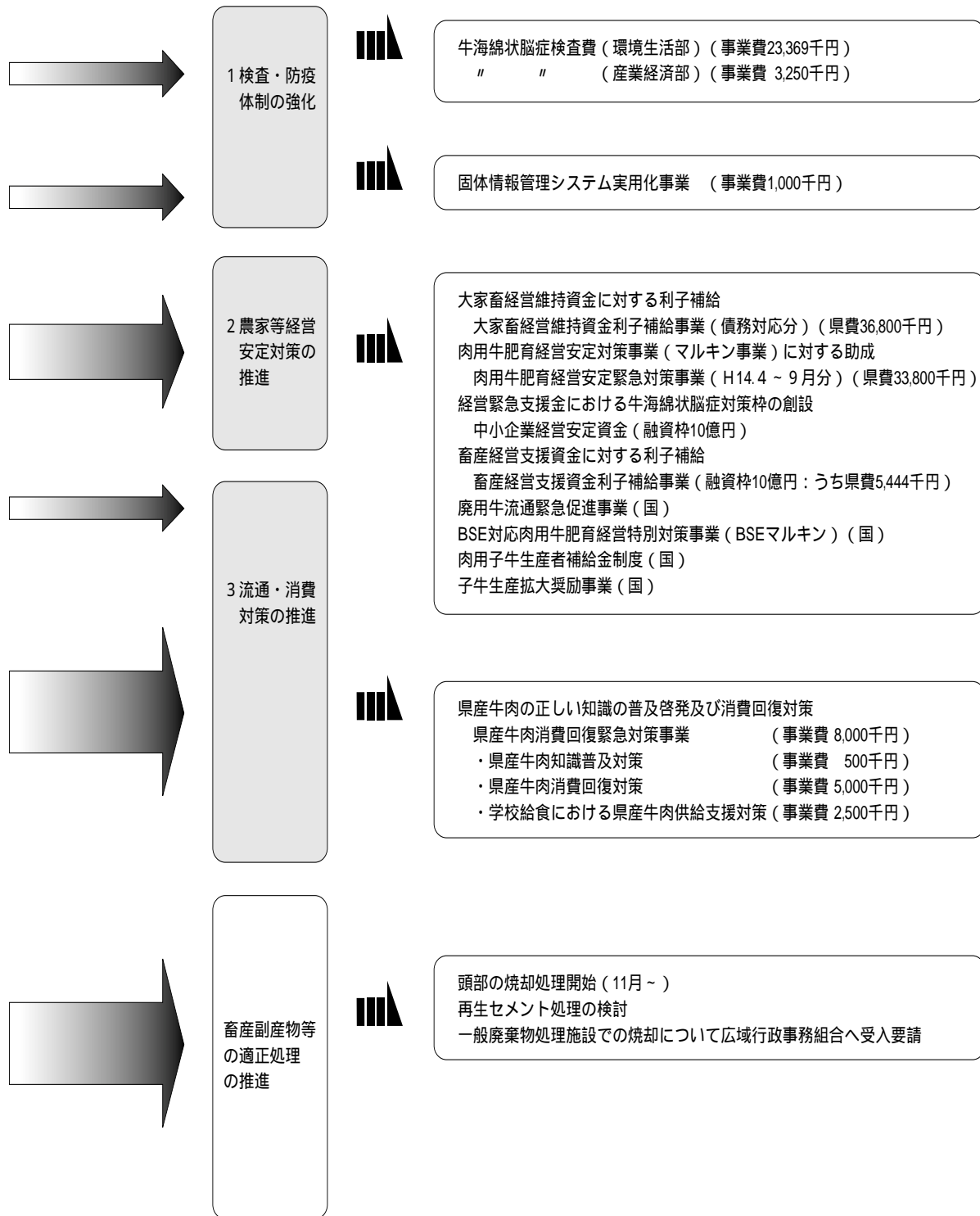
畜産農家及び食品関連企業等の経営不振

これまでの対応
 宮城県牛海綿状脳症対策本部設置 (平成13年10月9日)

1 検査体制	仙北食肉衛生検査所の検査体制整備 (2 名増員、技術研修受講、検査機器整備等) 仙台市食肉衛生検査所への県職員派遣 (2 名) 仙台家畜保健衛生所の検査機器の整備 牛飼養農家への全戸立入調査等
2 牛の移動状況の確認体制の整備	全頭を対象に耳標等による個体識別の把握 *平成14年1～3月で耳標の装着、データベース構築
3 畜産農家及び中小企業者に対する支援策	出荷繰延に対する助成 BSE対応肉用牛肥育経営特別対策事業 (国) 大家畜経営維持資金に対する利子補給 畜産特別資金利子補給 肉用牛肥育経営安定対策事業 (マルキン事業) に対する助成 経営緊急支援資金における牛海綿状脳症対策枠の創設 畜産農家への経営管理指導の徹底
4 特定危険部位を含む恐れのある牛由来原材料を使用して製造又は加工された食品の安全性確保について	国の通知について (社) 宮城県食品衛生協会会員への周知及び製造業者等への報告の徹底等 医薬品等の製造業者・輸入業者及び関係団体へ周知等
5 牛肉の安全に関する情報の提供	県産牛を食べる会の開催 宮城県食品安全推進懇話会の開催 「牛肉等の信頼回復、消費拡大推進対策会議」の開催 消費者アンケートの実施 BSEに正しい知識の普及啓発及び県の安全対策のPR 県ホームページによる情報提供と相談窓口の開設 スクリーニング検査の公表 学校給食への牛肉使用促進について市町村に要請 公共施設での牛肉使用の促進 (2/4県庁 2 階食堂等で使用再会) 「お肉のギフト券」の販売・斡旋 (県職員対象)
6 と畜場における特定危険部位の除去・焼却	登米地方環境衛生事務組合クリーンセンターでの焼却 (暫定措置) 受入可能施設の検討 常時焼却できる焼却施設の設置の検討
7 県内在庫肉骨粉の焼却処理	再生セメントへの処理の検討 受入可能施設の検討 一般廃棄物処理場、産業廃棄物処理場、製紙工場、電力会社等
8 と畜場の残さ及び家畜死体の処理	県外 (岩手県) レンダリング処理施設での処理 肉骨粉の一時保管倉庫等の確保検討
9 飼料、肥料関係の対応	再生セメントへの処理の検討 受入可能施設の検討 一般廃棄物処理場、産業廃棄物処理場、製紙工場、電力会社等 代替飼料の保管場所確保の検討

宮城県畜産課

平成14年度実施事業等



(畜産振興班)

平成13年度家畜共済事業実績について

宮城県農業共済組合連合会

平成13年度の家畜共済事業の引受並びに事故実績を御報告いたします。

1. 引受関係 (表1)

引受頭数は合計で140,442頭、対前年伸長率107.9%の増となり前年対比で10,326頭の増加となった。このことについては、平成12年度制度改正による中家畜（種豚、肉豚）の引受による9,567頭の増加によるもので他の畜種では特定肉用牛等で22頭減少したものの乳牛の雌、肥育牛で781頭の増加を見た。

共済金額合計では208億2,607万円、前年対比9,353万円の増加（100.5%）となった。この原因は中家畜の引受の増加が大きく影響している。

2. 事故関係 (表2・表3)

死産事故（表2 - 1）では損害防止に各組合等が積極的に取り組んだ効果もあり、全畜種合計で6,883頭、前年対比で1,479頭増加したものの、支払共済金は7億2,885万円となり前年を2,691万円下回る結果となった。頭数の増加は種豚、特定包括肉豚によるものである。大動物では肥育牛で82頭増加したものの乳牛の雌、特定肉用牛等で頭数、支払共済金の減少が著しかった。

死産を占める疾病名は（表2 - 2）全畜種においてBSEの関係から屠場への出荷が出来ず心不全による死亡の件数が著しく増加した。乳牛では心不全が前年対比で178.2%と増加し次に関節炎、ダウンナー症候群、急性乳房炎が死産全体の57%を占めた。肥育牛では心不全、肺炎、急性鼓張症、肝炎で50.4%、特定肉用牛ではその他の胎子異常が依然として多く胎児・出生子牛の事故の中で35.9%を占めた。乳牛の雌の関節炎を含む運動器疾患に対する損害防止の取組が今後の課題である。

病傷事故（表3 - 1）は乳牛の雌で前年対比798件減少、肥育牛で523件減少、特定肉用牛等で1,398件の減少、特に昨年増加傾向にあった胎児出生子牛で815件の減少を示した。全畜種で2,644件減少し、支払共済金では前年度を2,766万円下回った。（表3 - 2）主要疾病名は乳牛の雌では繁殖障害、乳房炎、周産期性疾患、特定肉用牛等では繁殖障害、子牛の腸炎、肥育牛では呼吸器疾患が多く経済的損失が甚大であることから、今後も関係機関、関係団体のご指導を頂きながら、本会で平成12年度より国の補助事業の指定を受け進めてきた家畜群疾病情報分析管理システムによる事故分析・情報の提供・事故防止の指導並びに従来から稼働している代謝プロファイルテスト、搾乳立会、繁殖巡回、ワクチン接種等を駆使し「事故低減と農家の生産性の向上」に努めてまいりたいと考えている。

(家畜部次長 武蔵 昌文)

(表1) 平成13年度家畜共済引受状況 (3月末現在)

	推 進 目 標			平 成 13 年 度			平 成 12 年 度			増 減			目 標 達 成 率		
	頭 数 (頭)	共済金額 (千円)	一頭平均 (千円)	頭 数 (頭)	共済金額 (円)	一頭平均 (千円)	頭 数 (頭)	共済金額 (円)	一頭平均 (千円)	頭 数 (頭)	共済金額 (円)	一頭平均 (千円)	頭数 (%)	共済金額 (%)	一頭平均 (%)
乳牛の雌	24,773	4,020,646	162	23,438	3,607,925,841	154	23,298	3,557,250,184	153	140	50,675,657	1	94.6	89.7	94.9
(成乳牛)				21,486	3,506,721,642	163	21,468	3,456,365,425	161	18	50,356,217	2			
(育成乳牛)				1,952	101,204,199	52	1,830	100,884,759	55	122	319,440	-3			
肥育牛	31,264	5,954,294	190	29,349	5,086,277,079	173	28,708	5,183,295,595	181	641	-97,018,516	-8	93.9	85.4	90.8
特定肉用牛等	77,302	12,889,139	167	75,251	11,954,573,364	159	75,273	11,911,893,784	158	-22	42,679,580	1	97.3	92.7	95.4
(親牛)				44,178	10,158,695,564	230	44,305	10,132,294,701	229	-127	26,400,863	1			
(胎児)				31,073	1,795,877,800	58	30,968	1,779,599,083	57	105	16,278,717	1			
肉用種種雄牛				1	640,000	640	1	640,000	640	0	0	0			
一般馬	44	20,370	463	45	17,575,000	391	45	17,640,000	392	0	-65,000	-1	102.3	86.3	84.5
大家畜計	133,383	22,884,449	172	128,084	20,666,991,284	161	127,325	20,670,719,563	162	759	-3,728,279	-1	96.0	90.3	93.8
種豚	873	52,186	60	1,893	90,504,000	48	812	45,990,000	57	1,081	44,514,000	-9	216.8	173.4	80.3
肉豚	13,200	105,600	17	10,465	68,584,000	7	1,979	15,832,000	8	8,486	52,752,000				
中家畜計	14,073	157,786	11	12,358	159,088,000	13	2,791	61,822,000	22	9,567	97,266,000	-9	87.8	100.8	115.9
合計	147,456	23,042,235	156	140,442	20,826,079,284	148	130,116	20,732,541,563	159	10,326	93,537,721	-11	95.2	90.4	94.7

(表2-1) 平成13年度家畜共済事故状況(3月末実績)

(単位:頭、円)

	平成13年度					平成12年度					増減				
	死亡	廃用	合計	支払共済金	請求保険金	死亡	廃用	合計	支払共済金	請求保険金	死亡	廃用	合計	支払共済金	請求保険金
乳牛の雌	1,476	795	2,271	364,580,507	291,663,780	993	1,539	2,532	401,218,297	330,781,447	483	-744	-261	-36,637,790	-39,117,667
(成乳牛)	1,462	791	2,253	363,516,520	290,812,597	973	1,531	2,504	399,506,307	329,383,326	489	-740	-251	-35,989,787	-38,570,729
(育成乳牛)	14	4	18	1,063,987	851,183	20	8	0	1,711,990	1,398,121	-6	-4	18	-648,003	-546,938
肥育牛	525	457	982	158,071,040	126,456,528	447	453	900	147,641,969	120,525,066	78	4	82	10,429,071	5,931,462
特定肉用牛等	1,622	153	1,775	187,428,107	149,942,168	1,588	284	1,872	199,830,327	162,010,318	34	-131	-97	-12,402,220	-12,068,150
(胎児・出生以外)	407	148	555	115,223,276	92,178,513	313	276	589	123,956,110	100,471,049	94	-128	-34	-8,732,834	-8,292,536
(胎児・出生子牛)	1,215	5	1,220	72,204,831	57,763,655	1,275	8	1,283	75,874,217	61,539,269	-60	-3	-63	-3,669,386	-3,775,614
一般馬	2	3	5	2,518,881	2,015,104	0	2	2	1,821,089	1,456,871	2	1	3	697,792	558,233
肉用種雄牛			0					0			0	0	0	0	0
種豚	99	68	167	7,755,958	6,204,713	47	51	98	5,257,941	4,348,075	52	17	69	2,498,017	1,856,638
特定包括肉豚	1,683	0	1,683	8,495,742	6,795,868			0			1,683	0	1,683	8,495,742	6,795,868
合計	5,407	1,476	6,883	728,850,235	583,078,161	3,075	2,329	5,404	755,769,623	619,121,777	2,332	-853	1,479	-26,919,388	-36,043,616

(表3-1) 平成13年度家畜共済事故状況(3月末実績)

(単位:円)

	平成13年度					平成12年度					増減				
	件数	支払共済金	請求保険金	ほてん金	技術給付金	件数	支払共済金	請求保険金	ほてん金	技術給付金	件数	支払共済金	請求保険金	ほてん金	技術給付金
乳牛の雌	18,003	312,650,710	92,771,294	120,007,337	76,679,289	18,801	320,620,652	97,788,173	128,181,662	74,067,721	-798	-7,696,942	-5,016,879	-8,174,325	2,611,568
(成乳牛)	17,430	307,335,630	91,217,018	117,963,889	75,350,501	18,255	315,578,792	96,239,173	126,567,256	72,498,691	-825	-8,243,162	-5,022,155	-8,603,367	2,851,810
(育成乳牛)	573	5,315,080	1,554,276	2,043,448	1,328,788	546	5,041,860	1,549,000	1,614,406	1,569,030	27	273,220	5,276	429,042	-240,242
肥育牛	9,223	106,541,764	36,030,828	40,538,093	20,965,144	9,746	112,244,622	38,254,869	44,908,400	20,559,797	-523	-5,702,858	-2,224,041	-4,370,307	405,347
特定肉用牛等	31,297	343,279,914	86,639,477	161,275,854	73,704,772	32,695	357,569,214	92,280,844	172,704,434	71,456,626	-1,398	-14,289,300	-5,641,367	-11,428,580	2,248,146
(胎児・出生以外)	20,255	196,982,304	51,980,677	94,870,249	37,136,250	20,838	202,014,274	54,809,538	98,858,327	35,884,793	-583	-5,031,970	-2,828,861	-3,988,078	1,251,457
(胎児・出生子牛)	11,042	146,297,610	34,658,800	66,405,605	36,568,522	11,857	155,554,940	37,471,306	73,846,107	35,571,833	-815	-9,257,330	-2,812,506	-7,440,502	996,689
一般馬	25	254,510	68,122	99,143	70,215	16	167,490	48,349	78,740	28,750	9	87,020	19,773	20,403	41,465
肉用種雄牛											0	0	0	0	0
種豚	264	1,495,470	269,151	167,692	991,340	198	1,290,270	315,581	182,850	735,030	66	205,200	-46,430	-15,158	256,310
特定包括肉豚											0	0	0	0	0
合計	58,812	764,222,368	215,778,872	322,088,119	172,410,760	61,456	791,892,248	228,687,816	346,056,086	166,847,924	-2,644	-27,669,880	-12,908,944	-23,967,967	5,562,836

(表2-2) 平成13年度家畜共済主要疾病発生状況(死産事故)

乳牛の雌	病名コード	病名	県計	H12県計	対比
	0100	心不全	458	257	178.2%
	1320	関節炎	314	435	72.2%
	0804	ダウナー症候群	277	288	96.2%
	0705	急性乳房炎	245	296	82.8%
	1350	腰痠	144	172	83.7%
		その他	833	1,084	76.8%
		計	2,271	2,532	89.7%

肥育牛	病名コード	病名	県計	H12県計	対比
	0110	心不全	232	178	130.3%
	0314	肺炎	99	121	81.8%
	0430	急性腎臓症	91	74	123.0%
	0471	肝炎	73	94	77.7%
	0434	迷走神経性消化不良	68	31	219.4%
		その他	419	433	96.8%
		計	982	900	109.1%

特定肉用牛等(胎児・出生子牛を除く)	病名コード	病名	県計	H12県計	対比
	0110	心不全	154	92	167.4%
	0468	脂肪壊死症	50	60	83.8%
	1350	腰痠	44	49	89.8%
	0314	肺炎	43	47	91.5%
	0455	腸炎	28	30	93.3%
	0430	急性腎臓症	28	31	90.3%
		その他	208	341	61.0%
		計	555	589	94.2%

特定肉用牛等(胎児・出生子牛)	病名コード	病名	県計	H12県計	対比
	0905	その他の胎子異常	439	453	96.9%
	0934	子牛虚弱症候群	205	192	106.8%
	0455	腸炎	170	183	92.9%
	0110	心不全	138	146	94.5%
	0936	その他の新生子疾患	105	124	84.7%
		その他	163	185	88.1%
		計	1,220	1,283	95.1%

(表3-2) 平成13年度家畜共済主要疾病発生状況(病傷事故)

乳牛の雌	病名コード	病名	県計	H12県計	対比
	0705	急性乳房炎	3,083	3,057	100.9%
	0627	黄体遺残	2,543	2,350	108.2%
	0617	卵胞囊腫	1,433	1,347	106.4%
	1210	ケトーシス	968	824	117.5%
	0620	卵巣静止	886	852	104.0%
		その他	9,090	10,371	87.6%
		計	18,003	18,801	95.8%

肥育牛	病名コード	病名	県計	H12県計	対比
	0310	気管支炎	3,230	3,777	85.5%
	0471	肝炎	1,105	906	122.0%
	0314	肺炎	775	620	125.0%
	0425	第一胃食滞	673	668	100.7%
	0455	腸炎	669	620	107.9%
		その他	2,771	3,155	87.8%
		計	9,223	9,746	94.6%

特定肉用牛等(胎児・出生子牛を除く)	病名コード	病名	県計	H12県計	対比
	0620	卵巣静止	3,877	3,901	99.4%
	0627	黄体遺残	3,141	2,766	113.6%
	0455	腸炎	1,749	1,874	93.3%
	0617	卵胞囊腫	1,719	1,744	98.6%
	0624	鈍性発情	1,638	1,458	112.3%
		その他	8,131	9,096	89.4%
		計	20,255	20,839	97.2%

特定肉用牛等(胎児・出生子牛)	病名コード	病名	県計	H12県計	対比
	0455	腸炎	6,990	7,371	94.8%
	0310	気管支炎	896	930	96.3%
	0465	胃腸炎	772	848	91.0%
	0934	子牛虚弱症候群	684	646	105.9%
	0314	肺炎	434	424	102.4%
		その他	1,266	1,637	77.3%
		計	11,042	11,856	93.1%

B S E の影響で経営に不安を持っている肥育牛経営者のみなさま 経営の改善に関する助言を受けてみませんか

宮城県産業経済部経営金融課

平成13年 9 月の牛海綿状脳症 (B S E) の発生以来、畜産経営者特に肥育牛経営者の方にとっては出荷繰延、販売単価の低迷、えさ代等経費が増加するなど経営面で大きな影響を受けています。

このため、国・県・市町村及び J A 等関係団体は、「大家畜経営維持資金」「出荷繰延助成」「マル緊事業」「B S E マル緊事業」など畜産経営の維持・安定に向けた各種支援を行っています。

しかし、資金繰りの視点から見ると、「大家畜経営維持資金」は 1 年以内の償還であり、さらに既往借入金等も抱えている方にとっては、通常年よりも運転資金を用意しなければなりません。

必要な時期に必要な額を準備できなければ、資金繰りに支障を来し、経営の維持が困難になる可能性もあります。

そこで、一人で問題を抱えないで、早期に専門家等の診断を受けて、自分の経営の現状と課題を整理し、経営の改善方策を検討することが重要と考えます。

希望される方には、中小企業診断士、県経営金融課職員、農業改良普及員がお伺いし、経営実態を把握した上で、問題点を整理し、解決に向けた提案・アドバイスを行います。

提案・アドバイスの例

課題・問題点	提案・アドバイス
経費の支払いが12月に集中し、支払うための現金が不足してしまう。	資金繰り計画(いつ・どれだけ必要か)の見直し、運転資金の追加借入など
B S E の影響で、今年の制度資金償還金額を準備するのが難しい。	借入金の償還条件変更(償還期間の延長、1回当たりの償還額の減額)など
利率の高い営農負債を複数抱えている。	低利の制度資金への借換など

相談の内容に応じて、決算データや出荷記録、動態表等が必要になります。

この診断助言を経営を見直すための機会として、是非御活用してみてください。

申込み・問い合わせは各地域農業改良普及センターへお願いいたします。

問い合わせ先	電話番号
経営金融課農林漁業経営指導班	0 2 2 - 2 1 1 - 2 7 4 2
大河原地域農業改良普及センター	0 2 2 4 - 5 3 - 3 5 1 6
亘理地域農業改良普及センター	0 2 2 3 - 3 4 - 1 1 4 1
仙台地域農業改良普及センター	0 2 2 - 2 7 5 - 8 3 7 4
古川地域農業改良普及センター	0 2 2 9 - 9 1 - 0 7 2 8
小牛田地域農業改良普及センター	0 2 2 9 - 3 2 - 3 1 1 5
築館地域農業改良普及センター	0 2 2 8 - 2 2 - 4 0 2 7
迫地域農業改良普及センター	0 2 2 0 - 2 2 - 2 0 6 9
石巻地域農業改良普及センター	0 2 2 5 - 9 5 - 7 6 1 2
本吉地域農業改良普及センター	0 2 2 6 - 4 2 - 2 6 3 7

(農林漁業経営指導班 今野嘉徳)

肉用子牛の補給金と通常マルキンの補てん金交付が平成14年4月から毎月に変更

(社)宮城県畜産協会

昨年9月の牛海綿状脳症(BSE)の疾畜発生後、牛肉消費量の減少や牛枝肉価格の低下から、肉用子牛の価格が低落し、畜産農家の経営に大きな影響がでています。

肉用子牛生産者補給金制度は、平成2年度に設置された牛肉の輸入自由化が肉用子牛の価格等に及ぼす影響に対処し、肉用子牛の生産安定等を図ることを目的としています。肉用子牛の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合、都道府県肉用子牛価格安定基金協会(宮城県は畜産協会)が肉用子牛の生産者に対して生産者補給金を交付する制度です。

平成13年度までは四半期毎に、平均売買価格の告示、補給金の交付を行ってきましたが、一刻も早く子牛生産農家の経営安定が図られるよう、毎月補給金を支給するよう政令により特別措置が講ぜられました。期間は平成14年4月1日から平成15年3月31日となっています。厳しい畜産情勢ではありますが、これらの制度を活用され、1日も早く畜産経営の安定が図られますようお願いいたします。

「肉用牛肥育経営安定対策事業」(通常マルキン)の補てん金交付時期が、従来の四半期毎から平成14年4月分の交付より毎月に変更となりました。

この変更の目的は、昨年9月に発生した牛海綿状脳症(BSE)の影響により、現状においても牛枝肉価格が低位で推移している為、「BSE対応肉用牛肥育経営特別対策事業」と同様に毎月交付することにより、肉用牛肥育経営体の収益性の改善を図る為であります。

なお、具体的な交付時期等は下記のとおりとなる見込みです。

記

- 1 補てん金単価の公表時期：翌月の下旬
例：平成14年4月分は5月下旬に公表
- 2 補てん金の交付時期：翌々月の下旬
例：平成14年4月分は6月上旬に交付

また、本事業は随時途中加入を受付しておりますので、加入希望の肥育経営体は宮城県畜産協会価格安定課まで問合せ願います。

TEL 022(723)0734 FAX 022(711)5322
肉用子牛担当：価格安定課 猪狩節子、亀井和也
新マルキン担当：価格安定課 大宮勝廣、石川正志

新人紹介

「宜しくお願い致します」

(社)宮城県畜産協会

畑中 大輔



今年の3月に宮城県農業短期大学畜産科を卒業し、社団法人宮城県畜産協会経営支援課に配属となりました畑中です。

出身は宮城県の多賀城市です。小、中、高校は多賀城市

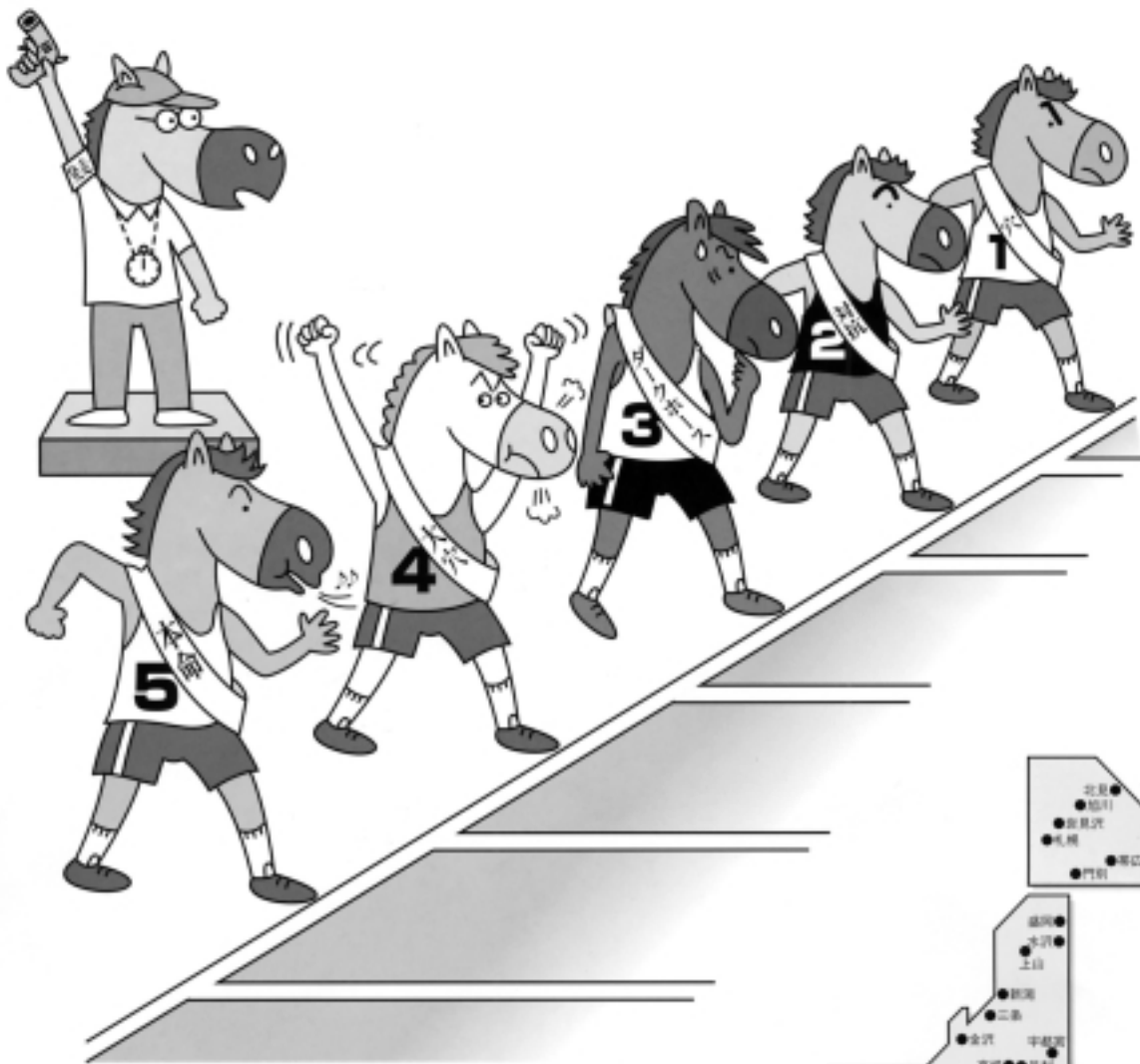
で過ごし、短大に入学してからは仙台市で一人暮らしを始めました。多賀城市には牛、豚、鶏などは全くおりませんでした。そのような環境で育った私です。畜産の勉強を始めた頃は分からない事ばかりでした。家畜に近くで接したのも短大での実習が初めてでした。

研究室は草地学研究室で、卒業論文では家畜ふんの堆肥化についての研究を行ってきました。短大での2年間は、勉強の面の他、様々な面で非常に充実したものでした。

4月に入会して早くも1ヶ月が経ちました。畜産協会働くにあたって、短大で2年間勉強してきた事を十二分に生かして努力しているつもりですが、分からない事や初めて聞くことが多く、戸惑ってばかりです。しかし、それが新鮮に感じられ、毎日が勉強だと思って一生懸命努力しております。また、1ヶ月の間には家畜改良課の業務で北は本吉から南は大河原まで出張しました。地元に住んでいながらその辺りの事は全く分からなかったため、宮城県という所はこんなにも広いのだという事を実感しました。

宮城県畜産協会が私の初めての就職場所となり、社会人としての生活は始まったばかりです。まだまだ半人前の私ですが、自分に任せられた事を精一杯頑張り、早く一人前になれるようにより一層努力をしたいと思いますので、皆様方の御指導と御協力を宜しくお願い致します。

ダートを駆けて ゴールをめざせ



地方競馬全国協会

地方競馬の収益金は、畜産の振興や馬に関する伝統行事の保存、街づくり、学校・病院の整備などに役立っています。

全国29場からお届けします。